

『哲学の探求』第30号刊行にあたって

2002年7月13日・14日、東京の八王子で第30回哲学若手研究者フォーラムを開催いたしました。この冊子『哲学の探求』第30号は、このフォーラムでのテーマレクチャー、研究発表に基づいたものです。

哲学若手研究者フォーラム(通称「若手フォーラム」)は、以前は「全国若手哲学研究者ゼミナール」(通称「若手ゼミ」)と称していましたが、2001年度より現在の名前になっております。若手フォーラムは、年1回開催する合宿形式の研究集会であり、主として大学院生やオーバードクターに向けて、大学、地域、専門分野の垣根を越えて哲学を議論する場を提供することを、その目的としています。なお、財政的援助の類はいっさい受けておらず、フォーラム参加者からの参加費だけで運営しております。(年1回発行の『哲学の探求』は、独立の会計としています)

2002年度の若手フォーラムには、関東圏の諸大学からはもちろん、関東圏以外の大学からも多数の参加をしていただき、合計15以上の大学から60名ほどの若手研究者が集うフォーラムになりました。テーマレクチャーには、品川哲彦氏、高橋久一郎氏、森岡正博氏の三氏をお招きし、「哲学の現場？」のテーマの下、哲学と社会的な問題とのかかわりについて発表していただきました。先生方には、質疑応答の時間だけでなく、懇親会でも議論に応じていただきました。また、個人研究発表にも多くの希望者が集まり、上限であった12コマを行い、さまざまな分野について活発な議論がなされました。そして、休憩時間をはじめ、一部の方は、深夜、早朝まで議論を続けていたと聞いております。2002年度のフォーラムが、このように活気のある充実した研究集会となったのは、レクチャーの先生方、個人研究発表者の方々、そして当日参加していただいたすべての皆さんのおかげです。2002年度若手フォーラム世話人を代表してお礼を申し上げます。

2003年度の若手フォーラムは、7月19日(土)・20日(日)に、東京八王子の大学セミナー・ハウスで開催する予定です。本冊子には、テーマレクチャー「日本語と言語哲学」でお話しいただく三人の方による講演要旨も掲載しています。なお、2003年度のフォーラムの詳細やご質問については、巻末にある今年度の各世話人までお問い合わせください。

2003年3月21日

2002年度 哲学若手研究者フォーラム世話人代表
岩沢 宏和